

令和3年度 河野美術館、今治城及び玉川近代美術館 指定管理者モニタリング結果

施設名	河野美術館、今治城及び玉川近代美術館
所在地	今治市旭町1丁目4番地8、今治市通町3丁目1番地3、今治市玉川町大野甲86-4
指定管理者	<p>名称 一般財団法人 今治文化振興会</p> <p>代表者 理事長 阿部 健</p> <p>住所 今治市旭町1丁目4番地8</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。</p>
担当部課(問合せ先)	<p>今治市 産業部 交流振興局 文化振興課</p> <p>TEL : 0898-36-1608</p> <p>E-mail : bunka@imabari-city.jp</p>

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	B	施設の目的である「学術文化に関する資料を収集管理して公衆の観覧に供し、あわせて調査研究ならびに保存顕彰につとめ、文化芸術の振興に寄与すること」を達成するため、条例、規則、仕様書等に従い、適切な管理運営に努めました。	B	指定管理者は、各施設の設置目的や基本方針のほか、本市の文化行政推進について理解した上で業務を遂行している。今後も関係法令等を遵守しつつ、施設の設置目的や基本方針に沿って、業務を実施していただきたい。
利用状況	B	施設利用者は、コロナウイルス感染症対策による臨時休館や、館主催の展覧会や講演会等の中止、貸部屋使用の取止めもありましたがほぼ横ばいとなりました。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、4/22～5/31(今治城は8/14～9/12も)の期間臨時休館としたほか、事業の中止や施設の利用制限等があり、昨年度と比較しほぼ横ばいの利用となった。感染症対策が日常となりつつある中、新しい生活様式に対応した企画等を検討され、文化施設の活用がなされるよう努めていただきたい。
事業収支	A	収入では新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、利用料金収入が大幅に減少し、事業復活支援金の支給となりました。支出では不要不急の支出を抑制するとともに経費の節減を図りましたが、事業収支はマイナスとなりました。公益法人会計基準を遵守し、施設毎の収支も計算し、会計事務所との協議の上整理しました。	B	5か年の収支計画指指定管理料の配分を抑えた年であったため、全体の収支としてはマイナスとなっているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用料金収入が大幅に減少している中、対昨年度比では増加に転じ、支援金の申請、経費の削減に取り組むことで指定管理料を除く収支では昨年度より改善されている。引き続き取り組みを期待する。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
管理運営体制	B	人員配置の体制は仕様書のとおりであり、勤務ローテーションも関係法令どおり遵守しています。管理運営の根幹を成す収蔵品の管理・保存・調査研究、常設展・企画展の開催などは、専門学芸員を配置し、各種研修会等に積極的に参加し、スキルアップに努めています。	B	仕様書に基づく組織体制により適正に管理運営されている。 研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になるものも多かったが、新規採用職員への研修など、適切に課題整理されていることを評価する。
管理運営業務	B	仕様書で定めた管理業務基準及び関連法令等を遵守する中で、適正かつ効率的な管理業務を遂行するために、管理業務の手法の確立、速やかな執行、管理記録簿の充実等を図りました。	B	各施設ともに、仕様書に従い業務を適正に執行し、適切な管理運営に努めている。今後も来館者が気持ちよく利用できる管理運営を行うとともに、経費の節減等に繋がる見直しも行いながら業務実施にあたっていただきたい。
利用業務	B	新型コロナウイルス感染拡大の影響により利用実績は引き続き大幅減となりました。利用者には、中学生や高校生を含めた幅広い世代を対象に文化芸術に触れ合う機会を提供することができました。今後も、魅力ある常設・企画展示を開催し、宣伝効果の高い媒体を活用した情報発信を行うことによって集客力のアップにつなげます。	B	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業や利用制限により、利用実績は目標値に及ばない結果となった。Webサイトへの資料目録掲載やTwitterアカウントの開設・運用を評価する。 新しい生活様式に対応した魅力的な企画や、効果的な宣伝広報のほか、新たな連携先との取り組みなど、さらなる利用促進に努めていただきたい。
その他業務	B	特に重大な事故は発生しておらず、順調に推移していますが、事故や災害等に備え研修等しています。省エネ対策、喫煙対策や個人情報に関する対応はそれぞれ職員の教育を行っており、職員の意識の醸成が図られています。今後ともこの状態を維持・向上できるよう施設の改善を図ると共に職員の教育に取り組んでいきます。	B	各施設とも、利用者の安全確保とサービス向上を意識し業務に取り組み、新型コロナウイルス感染症対策も適切に行われている。 開館日や利用時間の柔軟な対応は、新たな利用者の獲得に繋がるものであり、ニーズの把握も行いながら検討を進めていただきたい。
修繕業務	A	施設の老朽化が進み、施設本体や機械設備の劣化が目立っていますが、来館者や職員の危険防止・安全確保に関するもの、収蔵文化財の保存管理に関するもの、快適な施設の利用環境の向上に資するものの順に、緊急性の高いものから実施するようにしています。指定管理仕様書において、500千円以上の修繕は市が負担することとなっています。該当する修繕案件が発生しており、対応を要望しているが、実施に至っていません。修繕箇所の進捗が危惧されるため、早急な対応をお願いします。	A	各施設とも老朽化により修繕箇所も増える中、限られた予算の中で節減も行き、必要な修繕を見極め、優先順位を付けて計画的に実施されている。
備品管理業務	B	修繕等で備品の耐用年数の延長を図り、経費節減に努めています。貸与車輛は日常点検・定期点検を実施するとともに、運転日誌を作成して適正な運行管理に努めています。安全運転の励行については、館長が朝礼等で注意喚起を行っています。	B	各施設とも、備品管理が適切に行われ、修繕も行いながら大切に使用している。
行政財産の目的外使用許可手続業務	A	仕様書の定めに従い管理運営収入としました。	A	目的外使用の許可手続、収益処理ともに適切に事務が行われている。 今後も利用者のニーズ把握に努め、収益の増加や利便性の向上に繋げていただきたい。
自主事業	B	新型コロナウイルス感染拡大の影響による展覧会などが一部中止となりました。地域の学術文化の発展に寄与するため、館蔵品の名品を広く地域住民に公開すると共に、また地域で活躍している作家達の作品発表の場を提供する為の努力もしており、一定の成果を上げてきています。	B	各施設とも、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業について中止を余儀なくされた。事業は、慣例にとらわれず、新たな取り組みも企画するなどして、利用者や収益の増加に繋げていただきたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
地域団体との連携	B	「今治市河野美術館を育てる会」や地域の文化団体と連絡を密にし、地域の文化を振興し、その成果の発表の場として、積極的に連携に努めました。「今治地方観光ボランティアガイドの会」には、総合学習、校外学習の時間や遠足の機会を利用して来城する小中学生を対象に、今治市の歴史・文化に対する知識や理解、愛着を深めてもらうために、ガイドを依頼しています。また、土・日・祝日の来城者への団体旅行者への観光ガイドサービスについては、利用者から好評をいただいております。	B	各館とも、地域団体と連携を図り、事業協力や支援を受けるなどして、業務に取り組んでいる。既存の連携団体とは、関係を深めていくとともに、新たな連携先の拡充も積極的に行うことで、利用促進等に繋げていただきたい。
利用者アンケート	B	アンケート調査を形式的なものにせず、その要望に対して可能な限り対応しなければならぬという基本的な考え方に基づいて、職員の指導、展示環境の改善、施設の改修などを実施しています。接客対応や展示内容の良し悪しといったソフト部門では概ね高評価を得ていますが、ハード面では、施設の構造そのものや老朽化した設備に対する不満も見受けられます。これらの根本的解決方法は施設の改修であると考えており、市当局におかれては、出来る限り早い段階で具体的な整備計画を立案されるよう希望します。	B	各館ともアンケート調査を実施し、利用者状況やニーズの把握に努めている。改善要望については、対応可能な取り組みを順次行っており、来館者の満足度はいずれの館も満足が8割を超えていて評価できる。
事故・苦情	B	特段の事故や苦情は発生していません。引き続き事故の未然防止に努め、事故発生の場合は、被害者の立場に立った適切な措置を行います。また、苦情についてもスタッフ一同接客対応に際し、情報の共有化を図るため発生事案について利用者からの苦情の内容等を書面にて報告するよう周知徹底しました。	B	特段の事故や苦情は発生していない。今後も適切な管理運営や、利用者の立場に立つての設備点検等を行うことにより、未然の防止に努めていただきたい。
指定管理者の経営状態			指定管理者として問題なく経営が行われている。	

## 総合コメント(市)

指定管理者は、当該施設の設置目的を理解し、関係法令や協定書、仕様書に従って適正に管理運営を行い、市内陸地部の文化施設として文化芸術の振興、文化財の保存活用に努めている。令和3年度も、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館や事業の中止などを余儀なくされ、利用者数や利用料金収入が大きく減少となっている。引き続き利用者ニーズの把握・分析を進め、新しい生活様式に対応した魅力的な事業の実施や、効果的な宣伝広報のほか、新たな連携先の拡充などにより、更なる利用促進を図り、施設の活性化や市の文化振興推進策への貢献を期待する。